



第158回 古河提灯竿もみまつり ～受け継がれていく伝統～

江戸時代から続く伝統行事「古河提灯竿もみまつり」が12月1日、古河駅西口おまつり特設会場で行われました。今回で158回目を迎えるこの祭りは、矢来と呼ばれる高さ約10mの囲いの中で、長さ約20mの竹竿をぶつけ合い、竿の先につけた提灯の火を消しあう祭りです。「関東の奇祭」ともいわれています。

会場には、約1800人の参加者と市内外から大勢の見物人が訪れ、「バチン、バチン」とぶつかり合う竹竿の音や炎をあげて燃える提灯に観客からは大きな歓声があがりました。

竿の長さを競う一番竿は23mで「七軒町自治会」。大人部門(競技もみ)の優勝は「雷電一丁目自治会」、準優勝は「全原自治会」、第三位は「横山町自治会」でした。

また、古河提灯竿もみまつりと同時開催された「古河マルシェ」では、三国橋大聖院線の一部約100mを歩行者天国にして、35店舗の飲食店などが出店。寒い夜に温かい食べ物を食べながら楽しく会話する人たちが大いににぎわいました。

1: 競技もみで優勝した雷電一丁目自治会。2: 自由もみを楽しむ下三自治会。3: 競技もみでかんなを操る鍛冶町自治会。4: 観客席から見つめる女性。5: 子どももみでの様子。6: 化粧をして挑む下三自治会の人たち。7: 自由もみでの鷲一番組。8: 自由もみでの矢来の中の様子。9: 競技もみでかんなを操る横山町自治会。10: 子どももみを楽しむ七軒町自治会。11～14: 同日、三国橋大聖院線で行われた古河マルシェ。

